

中大産ホタル飛んでるよ

日差しもだんだん強くなつてくると、虫の世界も「我が世の夏」を謳歌する時期がやってきます。もちろん、緑豊かな中大キャンパスも例外ではありませんが、でも、それが「ホタル」といったら「エッ？」と驚くかもしれません。この中大で7年前からホタルの飼育、観察が行われているのです。

(学生記者・大谷秀之、峯宇^{みき}樹)

「蒸し暑い夜待ち遠しい」
今、羽化のまっ最中

硬式野球場の建設 がきっかけで保全

「中大とホタル」の縁は、現在の硬式野球場が出来る時に遡ります。それ以前は、一帯は多くの動植物が分布する谷地でした。幼虫期を水中で過ごすゲンジボタルも多く生息していました。ご承知のように、ゲンジボタルはきれいな水と緑がふんだんにある環境が必要です。

野球場の工事が始まると、それらの貴重な動植物が消失してしまいます。そこで平成4年、工事が始まる前にホタルの飼育場所を安全な場所に造り、復元させた環境に再び戻すということを決めました。現在、ホ

復元水路など生息環境整う



飼育上の注意を学生記者に話す草薙さん

タルを復元した環境に定着させることを目標に、飼育や繁殖を行っているわけです。

作業は根気が要ります。まず、同年の着工期に先駆け、ゲンジボタルの成虫の捕獲作業から始まりました。連日、捕虫網と虫かごを持ちながらホタルを捕獲するわけで、5日間の成果はオス78個体、メス21個体の計99個体でした。

次は捕まえたホタルの飼育場所としては、谷地の上部部にあたるハンドボール場周辺が適地と判断され、専門家の意見を取り入れたうえ「飼育場」と「水槽設置小屋」を造りました。

飼育場はU字溝を利用、それを取り巻く空間をネットで覆い、産卵箱の水コケが乾かないよう、上部から霧状の水が吹き出すシャワーを設けています。室内は湿度が高いため、シダ類やコケ類などの植物で覆われています。

これに対し、水槽設置小屋はプレハブ小屋にホタルの飼育水槽を置いた人工的な飼育施設です。取材をしたその日はかなり暑かったにもかかわらず、小屋に入った途端に汗が引

きました。水槽内の温度を管理しており冷房が効いていたのです。冬は逆にヒーターを入れて水温を10〜15度に保っているそうです。

このような温度管理やホタルの個体調査や観察など、専門的なことは管理会社に委託しています。管理会社の草薙さんが取材に付き合ってください、いろいろ話しをうかがいました。草薙さんの話は次のようなものでした。「ホタルの種類は多くても発光するものは数種のみで、特に一番美しい光を出すのはゲンジボタルです。近年、ホタルの数が全国的に減っているのは、餌となるカワニナ



の数が減っているからです。カワニナはホタル以上にきれいな水を好みますが、幸い現在の飼育場所には、カワニナが自生していたので心配しませんが、最近はその数も減りつつあります」。

こうした施設のほかに、野球場の南側の丘陵沿いに、湧水を流す延長100mの「復元水路」があります。

「照明消灯は早めにね」

いままで、あまりホタル飼育について公にしなかったそうです。ホタルの個体数が少ないうちに、生育場

底面には防水シートと粘土を20センチの厚さに敷きつめた漏水防止が施されています。昨年には、この復元水路で154個体の発生が確認されました。一昨年は64個体ですから、この仕事の成果がわかると思っています。

ところで個体数の確認は、収集したホタルの胸部や上翅にマキングすることで観察します。もちろん、

所を荒らされては困る、という配慮があつたからです。草薙さんも「ホタルを見に訪れたときは、水路の周



①この復元水路をホタルが飛び交う日は近い ②復元地域わきに立てられた立札

すべてのホタルを収集するのは不可能ですが、実際の調査より多く発生している場合が多いのです。

6月になるとホタルは最も美しい光を出して雄大な弧を描き、曇りの湿度の高い日に元氣よく飛翔するその姿である。キャンパス内でホタルの飛ぶ姿をみる事ができるのも中大ならではの光景です。

飼育からのお願い

りを歩いて踏み固めると、ホタルが産卵出来なくなるので、注意して歩いてもらいたい」と言われました。

もう一つあります。ホタルは夜間行動するので、テニス場や硬式野球場の照明はホタルにとっては明るすぎます。ホタルは照明が消えるのを待つて飛んでいる始末です。「活動が終わり次第、早めに消灯してほしいです」との要望もありました。マナーを守って「中大ホタル」を育てよう！

